

クロストーク 1 部：『エリアマネジメント活動のはじめ方』

コーディネーター：保井 美樹 氏（全国エリアマネジメントネットワーク 副会長）
パネリスト：伊藤 孝紀 氏（名古屋工業大学准教授）
 忽那 裕樹 氏（株式会社 E-DESIGN 代表取締役）
 後藤 太一 氏（リージョンワークス合同会社代表社員）
 宇山 穂 氏（エキキタまちづくり会議）
 大宮 勉 氏（（仮称）広島駅周辺地区まちづくり協議会）
 渡部 宏昭 氏（紙屋町・基町にぎわいづくり協議会）

（保井）これからセッション第 1 部を始めていきたいと思います。

「エリアマネジメント活動の始め方」というテーマです。6 名という大変大勢のパネリストによって構成されていますので、最初から申し上げますが時間が足りなくなると思います。限られた時間の中で、できるだけそれぞれの団体の状況をまずは理解して、その上で限られた論点になると思いますが、議論をできればと思いますので皆様ご協力の程よろしく申し上げます。

進め方ですが、皆さんのお手元に資料がありますが恐らく全てに触れるということはちょっと不可能だと思います。まず広島のエリアマネジメント団体さんです。皆さんのお手元にある資料、目次ですと 6・7・8。エキキタまちづくり会議さん、広島駅周辺地区さん、それから紙屋町にぎわいづくり協議会さん、この三つの地域についてまずご紹介をいただいて、それぞれの地域が抱えている課題について共有をしたいと思います。その後名古屋、大阪、福岡と、それぞれの地域の中でのマネジメントの話を、広島の課題を意識しながら 10 分程度でお話ししていただこうと思っています。

まずエキキタまちづくり会議のご紹介を宇山さんからお願いします。

「目の前の課題問題点が原動力」、新旧の多様な要素が混在するエリアマネジメント

（宇山穂氏 以下、宇山）エキキタまちづくり会議の事務局をやっております、復建調査設計の宇山と申します。よろしくお願いいたします。

エキキタまちづくり会議の紹介をすると時間がかかるので、お手元の資料に記載しているので、また帰ってから見ていただければと思います。

我々の団体は 2015 年 3 月に設立されました。現在は 24 団体で構成され、毎年 3、4 社ずつ増えています。エリアとしては、駅の北側のちょっと広いエリアです。これは、我々の活動メンバーの中に連合町内会が入っているということで、連合町内会さんが活動しているエリアと概ね同じ様に広めにとっています。

特徴としましては、色々なものがあるのですが、「これだ」というものがなかなかなくて、商業も、マンションも、観光客も多く、歴史ある建物も多いということで何か一つに絞るとするのが非常に難しいエリアです。

そんな中、東区役所さんが作成されたのが、この「エリアマネジメントのイメージ図」です。区役所さんもエキキタでエリアマネジメントというものをやってみようかと考えた時に作った図でございます。

特徴としましては、区画整理事業でできた新しいエリア、戦後にできたまち、それから戦前からあるまちが、混同したエリアでございます。それを基に、区役所さんで長期的なスケジュールを組み、これに沿って動きたいという思いを区役所さんは持っている。

そんな中、立ち上がった今の24団体で進めるにあたり、色々な団体が集まっておりますので、これを統一するのは難しいということで、2年間をかけて街づくりビジョンを作りました。この辺りの資料は、ロビーのエキキタまちづくり会議のブースで紹介しておりますので、是非見て帰って頂ければと思います。

(この街づくりビジョンでは)5つ柱を作っています。「集う、活かす、つなげる、安全安心快適、自立する」、という5つの柱で行動しようという事を皆さんで共有し、これに則って活動する。何かイベントをする時に5つの柱にその活動が合致しているかということを確認しながら進める。過去の紹介になりますが、それぞれの活動内容のパンフレットを外のブースに置いてありますので参考にいただければと思います。

自立するところで言いますと、最初の勉強会では出口先生に来ていただき、エリマネを語って頂くところから始まりました。直近では指定管理の専門家の先生に来ていただいて、公園の指定管理についてお話しいただくようなことをやってきました。

我々の活動のマイルストーンがございます。先ほどの区画整理事業(においては)、IKEAさんが未着工ですが、それ以外の物がこの2年間で出来上がる。そこを目指して我々が何をするか一生懸命考えているということでございます。大きな課題として、公園の指定管理、これを連合町内会のみならずと一緒に受けることにしました。なぜ受けたかと言いますと、区画整理事業により公共が持っている緑地、民間が持っている緑地が一体的に整備され、非常にきれいな空間ができたが、市の管理でいくと年4回しか維持管理できないので、これを何とかしたいという思いで町内会が立ち上がり、指定管理を請け負うことにしたのがこの4月です。

指定管理を受けてはみたものの、非常に価格が安く、先ほどの目標を達成するような維持管理ができる状況ではありませんでした。そこで、ここで稼ぐ仕組みや周辺企業が参加しやすい仕組みを入れることが重要と考え、清掃の時だけ企業広告を出しています。それから、その一斉清掃のイベントにスポンサーをつけてここでお金を頂き、ドリンク代や公園の清掃用具の購入に充てるということやっている。余談ですが、緑地を使ったマルシェなどのイベントをしている時に市長さんに来ていただいて、市長さんから「イベントで稼いだお金を維持管理に使うことは大いに結構、どんどんやりなさい」という言葉をいただいております。いただいておりますが、なかなかそれが浸透するのは時間がかかると思いましたので、ここで紹介をさせていただきました。

もうひとつの課題が有効空地の活用です。これも来年の春に竣工いたします広島テレビさん、大和ハウスさん、エネコムさんの間の有効空地活用なのですが、これは有効空地ということで、地権者さんが使いたいと言っても制限がかかっていて難しい。

ただ、この場所についてはその地権者さんだけが使いたいのではなく、エリアの方皆でこの場所を使いたいという思いで、我々の会議の中で提案をして市役所さんと協議をしながらスキーム図と案を作り、この案をもとに有効空地を活用する実証実験をするということで今調整をしているということです。こちら前例がないことなので、市役所さんも非常に苦労しながら、我々とお話をしながらここまでやってきたということでございます。

今このように、エキキタまちづくり会議の活動は目の前の課題、問題点が原動力になっています。課題がなければ我々の活動はなかなか進んでいかない。これは広島市、公共も全く同じだと思います。

課題が目の前にあると、それを打破しようとしている市民の団体がある、その原動力がその課題を克服したいということで進んでいくのですが、行政の中では判断が難しい。特例とすべきか悩んでも悩まなくてもなかなか前に進まないというのが行政さんの考えで、非常に苦しんでおられるのを我々

も目の当たりにしています。ただ時間が過ぎると、我々無報酬でやっているの、そこから先に進めないとどこかで疲弊してしまいます。

「皆さん一緒に“まずやってみよう”から始めませんか」ということで、問題は多いのですが、我々は課題に対して向き合い、色々なことをやっているの、「まずやってみる」という事を皆さんで共有できて進めればよいなということで、我々の活動が今まで進んできております。主に次の2団体と違うテーマの内容の課題を抽出してお話をさせていただきました。ありがとうございました。

(保井) ありがとうございました。公園管理の話、それから行政とどう悩みながら一緒に前に進むかという課題。そういったことを出させていただきました。今度は広島駅周辺地区の現状と課題ということで仮称広島駅周辺地区まちづくり協議会の宮様をお願いしたいと思います。

「先ずはご近所さんを知ること」から始まる広島駅周辺地区の“変わり続ける”エリアマネジメント

(大宮勉氏 以下、大宮) 広島駅周辺地区まちづくり推進協議会の構成員である大宮と申します。仮称とついておりますけれども来週には正式になる予定です。

エリアマネジメント団体設立の経緯ですが、駅南口の方にも色々な再開発案件があり、私も管理しているエールエールA館という建物が平成11年に竣工しています。そしてBブロックが平成28年、これはビックカメラさんとタワーマンション、Cブロックはエディオン蔦屋家電さんとタワーマンション、それと駅前大橋の南側、ちょうどBIG FRONTひろしまさんとBブロックがその南側ですけど、猿猴橋の復元も行われ、その横に河岸緑地を整備しています。そこ(スライド)に川の駅と書いてありますが、これも昨年完成しています。将来的には駅ビルさんの建替え工事も始まり、広島電鉄さんも2階乗り入れ工事も後々に控えており、この南口も再開発でどんどん生まれ変わっています。広島ボールパークタウン マツダスタジアムとありますが、広島カーブの人気は凄いもので、出来て大方10年経とうとしていますが、大きな集客装置が駅口エリアにはあるということでございます。

私どもの会社のPRになってしまいますが、広島駅南口開発は、ここエールエールA館という建物の運営管理を、地元百貨店福屋さんと一緒にやっていますが、おかげさまで来年には20周年を迎えます。ここに地下広場という空間がありますが、公共施設でございまして。その指定管理業務を受けており、地下広場の施設管理と、イベント会場も大型マルチビジョンを持っておりましてその運営管理、イベントの開催も行っています。最近では、三代目J Soul Brothersの今市さんが来られたときには地下空間でありながら2,000人の方がお見えになったということで、開発が進むことでこのエリアがどんどん見直されているという状況でございまして。

これまでの取り組みですが、先ほどエリマネを立ち上げるのに色々な立ち上げ方があると言いましたが、私どもは教科書に沿った形でこの取り組みを行っています。まず平成26年から参加が想定される地区内に、特に行政の方からヒアリングをして参加を呼び掛けています。エリマネに関する勉強会では、外部講師を招いて、内部講師を招いて勉強会も行ってきました。

そして、「できるところからやろう」と、先ほど宇山さんも言われていましたけれども、お金かけずできることとして、地元でどんな方がいらっしゃるのかを知るといことも含めて一斉清掃というのも定期的に行っているところでございます。また、「新たなまちを考えるワークショップ」というものも何回か開催しております。先ほども申し上げたように、まずご近所さんを知るところから始まり、「ご近所さん同士でなにができるか」ということを考え、そのアイデアを深掘りし、整理しているというのが現状でございまして。

エリマネ団体はようやく来週設立予定ではありますが、規則であるとか組織であるとか、財源であるとかその他そういったものを具体的に検討しており、いよいよ来週設立予定ということです。

活動理念と格好よく書いておりますけれども、一応スローガンとしては、「ワクワクドキドキ変わるエキマチ HIROSHIMA」ということで、これはどこか広告代理店さんに考えてもらったということではなく、みんなで知恵を出して、ワークショップの中で出てきた色々なキーワードを組み合わせながら自分たちが作った、本当に素人が作った名前です。「どんどんこれからも変わっていきますよ」と、変わり続けるという気持ちを持ちながら、こういったスローガンを掲げているところです。

協議会を立ち上げるにあたっての戦略として、「おもてなしのあるまち」、「にぎわいあるまち」、「スポーツと健康のまち」、「安全・安心なまち」という戦略を四つ掲げています。駅に近いエリアなので、JRを中心に集客の拠点として、おもてなしをしっかりとやろう、にぎわいも行おう。そして、カーブ球団さんがこの度この構成員に入って頂き、部員施設も近くにありますのでスポーツと健康もテーマにしたい。また、安全・安心なまちは、どこのエリマネさんも同じですけれども、地域に新しく住まれる住民さんもいらっしゃいますので、その方々も一緒にこの安全・安心なまちということもテーマにしながら行っているところでございます。

立ち上げて、できるところからということなので、おもてなしについてはエリアマップや案内所の充実・連携を図ろうとか、にぎわいは今やっているイルミネーションを少しずつ広げていこうということを今年度、平成30年度は取り組んでいこうと思っているところです。

まだ立ち上がっていないので、課題というところは実際にはわかりません。検討していく中で課題が出てきているという話ですけど、成果としては地域がまとまって一緒になにかやろうという意識は強まっています。ただし、色々な事業者さんがいらっしゃるの、事業をやるにあたっては協賛金というものがどうしても必要になりますが、その費用支出をお願いすると、当然効果も期待され、温度差も出てきてしまうというのがこれから詰めていく中で出てくると思っているところです。

行政のほうも規制緩和をしていただいて公共空間を活用できる仕組みをしっかりと作っていただきたいということはエキキタさんも同じだと思いますが、同じ思いを持っています。

最後になりますけれども、これは私個人の意見ですが、先ほども申し上げたように地下広場というのは第三セクターの立場で既に管理して20年くらい経ちます。にぎわいづくりという点では、このエリマネの考え方とかノウハウというのは活用できるのかなと思っています。駆け足になりましたが私からは以上です。

(保井) はい、ありがとうございました。来週協議会が設立されるというはじまりのはじまりというところの状況をお伺いできました。では続きまして紙屋町・基町にぎわいづくり協議会から渡部宏昭さんにお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

多彩なプレイヤーと共に、商業施設共同販促中心からエリアを意識した取組へステップアップ

(渡部宏昭氏 以下、渡部) 紙屋町・基町にぎわいづくり協議会で事務局をしております、NTT都市開発の渡部と申します。よろしく願いいたします。

当協議会のご紹介をさせていただきますけれども、キャッチコピーで「たちまち都心 紙屋町」というしております。「たちまち」という言葉は広島弁で「とりあえず」という意味があり、なにはなくとも気軽に立ち寄れるまちであってほしいという思いを込めて取り組んでおります。

2002年の7月に設立をいたしまして、まもなく16年を迎えようとしております。6会員でスタートしましたが、今はご覧の通り15の会員がございまして、商業施設、金融、体育文化施設、交通機関、ホテル等、様々な顔ぶれで構成をしているところでございます。

広島都心の中での私たちの位置関係を示しておきます。冒頭の挨拶でもありましたが、「楕円形の都心づくり」と言われている中で、広島駅エリアが東にあります、私どもの紙屋町・基町は八丁堀とともにその西側に位置しているということでございます。

設立以来の主な歩みをご紹介させていただきます。まずは初期の段階、創設期以来ですが、もともと商業施設を中心にできた会であり、商業施設の共同販促が初期の取り組みの中心でありました。そこにビジュアルがありますが、それまで各商業施設が別々に発行していた広告を、一つにまとめてスケールメリットを発揮したというものが代表的な例になっております。

続いて転換期です。先ほどの商業中心の取り組みが多かった時代を少し振り返ってみること、それから会員の数も増えてまいりましたので、商業関係以外の取り組みを強化した時代です。先程の共同広告のような商業施設独自の取り組みは引き続きやってはいましたが、ここではそれ以外で取り組んだ全会員でやる取り組みをご紹介させていただきます。例えば、15社の会員がサンタクロースに扮して行った街頭募金や、打ち水を始めたのもこの時期にあたります。

続いて模索期としております。これまで申し上げてきた取り組みを続けてきたわけですが、果たしてそれがどうだったのかを少し議論しようという時代にあたります。特に2015年度については、大きな施策というのはいったん見合わせまして、運営体制等も含めて白紙から議論を行ってきたという時代にあたります。ただ2014年度については、前年度から続けてきた取り組み、全体で取り組むようなイベントというのも引き続き継続していた時期にあたります。

そして現在2016年度以降は、先ほど申し上げてきたような議論も踏まえて少しエリアマネジメントやまちづくりの志向に入ってまいりました。運営体制も、分科会を作りそれぞれのリーダーのもとで施策を展開するような方向に切り替えております。

最後に課題・現状ですけれども、事務局といえどもエリマネというものを完全に理解しているわけではなく、ある意味、見様見真似で取り組んでいる面がございます。そしてご覧いただきましたように、もともと商業施設の共同販促が中心の活動だったわけですが、それが徐々にエリアを意識した取り組みになっており、これからエリアマネジメントに向けての本格的なステップアップの時期であり、またそれをするにあたって我々の納得性や合意形成を図るという段階にあると、今考えています。

それに伴う今後の課題としまして、我々は企業集団でありますので人事異動もございます。そういった中では事務局の機能をはじめとして、持続可能性のある運営体制はどういうものかということ、基町クレドふれあい広場など既存有効空地の活用の仕方があります。また、現在の活動は、その都度お金を出しあってやっているもので、活動資金をどう確保していくのかということ。さらに、今任意団体なわけですが、先々法人化も必要なのではという検討もあります。その他、資料に間に合っていないが、楕円形の都心づくりを受け八丁堀エリア、駅前エリアとの連携の仕方これから検討していく必要があるだろうと考えております。以上でございます。

(保井) はい、渡部様ありがとうございました。では、ここまでが広島都心部街中の現状でありました。多くの方々がそれぞれの課題認識のなかで、今やれること、或はこれからやろうとしていることに取り組んでいらっしゃるということがよく分かったと思います。

今これまで出てきたところで、まず宇山さんのところから、公園の指定管理を受けようとしている

中で、ある意味公共空間で稼ぐことがNGとされてきたこれまでの時代の価値観を大きく変えて、そこで稼いで質の高い公園にしていこうとしている、しかしそこには価値観の転換が必要であり、それを如何に受け入れられるようにしていくか、そしてさらに前提のないことに行政と一緒にどう悩み取り組んでいくか、先に進めていくか、その辺りの課題のお話があったかと思います。

そして広島駅周辺まちづくり協議会さんは、まさに始まりのところで、いかに意思の統一をはかって、これからみんなが愛する街にどうやって育てていくか、何をやっていくべきかというところがあったかと思います。

紙屋町・基町のほうからは、まさに共同販促としての取り組みや歴史が非常に長いわけですが、ある意味このエリアマネジメントを通じて、いわばアセットベースの地域にある資源をどのような形で生かしていくかという新しい取り組みにどうスイッチさせていくかというところ、そしてそれをだれが担うのか、人事異動がある人も多い中でその運営体制をどうするのか。そしてお金、その都度出している資金、これをどう安定的に出していくのか、財源、人の話などが論点として出てきたかと思います。これだけでもたくさんの論点がありますが、少し頭の片隅におきながら今度は広島の外から来られた方々のお話を伺っていきたくと思います。目次の通りですみません、最初名古屋の栄南まちづくり会社の活動につきまして、それにずっと一緒に指導・活動されている名古屋工業大学の伊藤先生にお話を伺いたくと思います。よろしくお願ひします。

エリア関係者と専門家が一体となり長期ビジョンを見据えた社会実験の積み重ねによる取組の拡大

(伊藤孝紀氏 以下、伊藤) よろしくお願ひします。名古屋工業大学の伊藤と申します。今日は栄南まちづくり会社の顧問として来ております。

栄南のまちが、名古屋の中でどの辺りにあるのかを皆さんにご理解いただくために簡単に紹介ですが、名古屋駅がこちらにあります。入っていないのが残念ですが、上が名古屋城です。テレビ塔がある大通公園というのがこちらです。栄というのがここなのですが、その南側全体が栄南の地域になります。

14 町内会と 6 商店街が一緒になり、最初検討会が始まりながら、委員会という親会を作り、実行する社会実験協議会を作ってきました。委員会には、もちろん地権者の皆さんが入るというのは当たり前ですが、市役所の各課の皆さん、そして消防、警察、議員の皆さんも入り、皆で一緒に活動をしていくということをやっています。そして、実行していく商店街の皆さんが中心となったものがまちづくり会社となり、エリアマネジメントを進めているという形になります。

2016 年 11 月に「栄南まちづくり会社」が設立され、今年 2 月に名古屋市では第一号となる都市再生推進法人になりました。ロゴマークも作っておりますので、後ほど (スライドに) 出てきますので記憶の中に留めておいてください。大きくはこの 3 年間で検討しながら会社をつくり、会社の収益を得るための収益事業を何にするかを検討するため、社会実験を行いながら都市再生推進法人を担っていった、ホップ・ステップ・ジャンプという形です。

まちづくりの活動自体は約 10 年続いています。その 10 年続けてきたことの大きな基盤となっているのはこれらのイベントですが、まさに今週末に「栄南音楽祭」というものがあります。町中が音楽ステージになり非常に賑わいがあり、夏は盆踊り、秋には B 級グルメ決定戦と、四季とりどりのイベントを行っております。

重要なのは、「お金が欲しい」という事は実は地権者の皆さん何も言っていません。補助金や助成金などのお金はいらないと、自分たちで安心安全管理はちゃんとする、運営もする、企画もする、お

金もとってくる、と考えています。そのための規制緩和をして欲しいという事で、公園や公開空地、道路が使えるようになっていきます。簡単にいうと、12会場450組以上のアーティストが来週のイベントには集結します。今は全国からこの栄南の音楽祭に出ることが登竜門的になっています。このような形で、公共空間が使われてかなり盛り上がっています。さらに、名古屋 music day という枕詞がついていますが、名古屋駅地区や大須地区、金山地区、ほかの地区でも展開しております。栄南音楽祭から夏は盆踊り、町内会も、女性たちが中心になりながら作っています。また、B級グルメで名古屋飯を盛り上げようということで、地域のお店の方々が新しい商品を開発したりしています。

大須通の歩行者天国が昭和45年にスタートしていました。よく見ると歩行者天国で有名な銀座のホコ天は同じ45年の8月なので、全国初といっても過言ではないくらい先駆的な試みでした。このように、非常に多くの人たちがいましたが、一時もう20年くらい中止されていたものを2011年に社会実験という形で復活させています。そしてファッションショーやステージ、音楽ステージを作って盛り上げています。

どちらかというとソフトウェアを作りながらの取り組みですが、中央分離帯があるとホコ天をしたときに非常に邪魔なので、長期的には道路整備もしていかななくてはいけないという長期的な話とも連動しながら計画をしています。そうすることで、歩道が広がっていくという計画も地権者から提案しながら市と一緒に計画をしていく。また、こういったイベントとともに長期ビジョンを見据えていかななくてはいけないので、長期のビジョンを研究室の皆さんと一緒に1年かけて作りました。

名古屋駅から栄にかけては碁盤目状にできているのですが、ちょうど栄南の場所だけくの字側の逆側に曲がっています。これを作り、ヒューマンスケールを一分の一で体感できるような街路灯や駐輪場などの目に見えるものから、各通りのデザイン構造を作っていきます。そしてパースを作っていくのですが、パースだけであればある意味すぐにできます。ところが、明日からでもすぐにできることは何だろうということで、街路灯は商店街組合が管理して運営しているものですから、この街路灯一本からまずは作っていきこうということでやりました。3年をかけて街路灯150本が全部変わっています。街路灯を変えながら

歩行者空間には、オブジェや低木植栽、使っていないゴミ貯めのようなものなど色々なものがあります。こういったものを全部とっばらって白線だけ引いて、駐輪スペースと歩行者スペースを広くしました。白線があるだけで、名古屋の人たちは皆真面目なのできっちりと停めてくれます。

広がった歩道を使い、社会実験を3つやっています。1つは全国初のデジタルサイネージということで、スマホが大きくなったと思ってください。触っていくと色々なまちの情報やイベント情報などがわかります。また、半分は広告面なのでこれが収入源になっています。

次に、全国初で駐輪禁止地区の指定をせずに駐輪事業をやりました。これも、名古屋の方々は真面目なので、ちゃんと入れてくれます。こういったところもデザインを揃えているので、街路灯から駐輪のシステムまで、同じデザインで機能しています。

シェアサイクルも展開しています。これも同じようなデザインです。基本的にはイベントのメインステージになっているのが矢場公園という中心的な公園です。公園も今、パークPFIという話がありますが、まず地権者の皆さんの課題を把握しながら、模型を作り実際に合意形成して、次に市の方とどのように形にしていってほしいだろうということを展開しています。

昨年実施した、恐らく全国で初めてだと思いますが、車道上全部を使ったパークレットです。パーキングエリアの部分を使ったパークレットの実践と、車道に自転車を走らせるために矢羽を引き、車道から駐輪をするということを行っています。

また、商店街組合のアーケードがあるのですが、こちらもなんとかこのデザインをキープしながらデザインを変え、エリアマネジメントが収益源になっていくことを考えています。これも全国初で、車道上に矢沢永吉の広告が掲載されるような例です。こういった収益を得ながらエリアマネジメントを行って、デザインの戦略も行っています。

名駅と栄が、基本的には対抗軸のようにマスメディアで挙げられているのですが、やはり各地区がそれぞれまちづくりで盛り上がるということが非常に重要だと考えています。そのために、それぞれの地区を結びつけるような戦略を考えるべく、まちづくり協議会の皆さん、各地区の皆さんと一緒に勉強会やフォーラムを行いながら、クリエイティブ構想のようなものを出しています。

時間になってしまい非常に散漫になっていますが、最後に、恐らくお手元にあると思いますが、重要だと思っていることが3つあります。「社会実験的にすぐやれることは何か、ということを考えていくこと」、「長期ビジョンをきっちりと考えていくこと」、これはセットだと思っています。そして、「都市政策と産業政策がやはり一緒になっていかななくてはだめということ」で、行政のシステムの問題だと思いますが、都市政策と産業政策がバラバラです。シティプロモーションや観光、産業の誘致というものと都市計画的な我々が専門とするところが、いかに一緒になりながらやれるかというところが一つの鍵だと思っています。そんなところで栄南の紹介とさせていただきます。ありがとうございました。

(保井) はい、ありがとうございました。自治会、町内会、振興組合、地元の企業さん、そして大学と、本当にもう地域に関わる方が総ざらいで、そしてまちづくり会社を作り、自分たちのやることをどんどん形にしていくという姿が非常に印象的でした。

では続きまして今度は「御堂筋をパーク・ストリートへ」というテーマで、株式会社 E-DESIGN 代表取締役の忽那さんにお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

「環境デザイン」ビジョンをプラットフォームで共有。公共空間を使いこなすエリアマネジメント

(忽那裕樹氏 以下、忽那) みなさん、こんにちは。E-DESIGN の忽那と申します。今日は御堂筋のNPO 御堂筋長堀 21 世紀の会の立場でお話しさせていただこうと思います。

全国から来られているようですが、大阪の話でございます。

私の紹介として、E-DESIGN は、道路、公園、河川、商業空間も含め、公共的空間も含めて広がっていますので、環境デザインということで、水都大阪のまちづくりや商業のなんばパークス、小中一貫校、里山、公園づくりとして草津川の河川跡地に関わっています。そこ全てにおいて目指しているものが、この環境デザインです。

「デザインとしていく」ことをビジョンとして共有するという事は、日本では慣れていないと思いますが、それは「将来像も含めてデザインとして共有すること」、それと「仕組みづくり」ということだと思います。今、色々な仕組みづくりの話が出ていますが、“稼ぐ”という仕組みから“市民参画”の仕組み、或は“将来の子供たちがどう参画するのか”など、そういう話も含めたもの、それと大切なのが「使いこなし」ということで、使ってなんぼの公共空間と言いますけれども、ずっと使いこなすということで、ゲリラ的な使いこなしなど、そういうことも含めて色々なところで活動しています。この三つを一緒に解決していくような、プラットフォームというか、集まり、協議会というものを、作っていくことがすごく大事だということです。

御堂筋の説明を状況的にします。大阪駅があり、北、南と言われているところですが、真ん中に四

車線、側道が一車線ずつという歩道含めて44mの道路が4kmにわたってあります。490本の銀杏並木という、世界的にも類をみない並木道であるこの資産を活かしながらやっていくべきということです。

歴史としては、80年前御堂筋です（スライド）。大阪は、大阪城から東西に通りを作り、南北が筋です。他の街と比べると90度ずれています。東西で通り、80年前に「飛行場つくるのと違うか」と揶揄されたようなこの細い南北の道を筋として拡大して作っていきました。

万博のときに一方通行化ということがあり、昨年80周年を迎えたので我々の方から、80周年の記念推進事業の委員会のようなものが作られました。これはとても重要なことですが、官と国と、市や経済界、或はあとで説明します御堂筋三団体が、ひとつのプラットフォームを共有しながら、最終的には御堂筋を20年後の100周年に、車道を全部シャットアウトして公園のようにする「パーク・ストリート」にしようとして取り組んでいます。大阪市さんはフルモール、民間としてはパーク・ストリートという言い方で新聞でも含めて扱ってもらいながら進めています。スライドは、大阪市さんが推進委員会に出している社会実験の時のものをコラージュしたのですが、そういったものを目指すということを共有しながらやっています。

御堂筋三団体というのは3つのまちづくり団体のことで、御堂筋の北の方を「御堂筋まちづくりネットワーク」、真ん中を「御堂筋長堀21世紀の会」、そして「ミナミまち育てネットワーク」と、それぞれの団体がエリアの個性や企業、周りの企業の民間の人のキャラクター、まちのキャラクターに合わせてながら活動をしています。今回80周年で三団体が御堂筋全体の話共有して打ち出し、それぞれの個性も発揮していくような協議・連絡の場所を作っていこうということで、色々な社会実験をやっています。

御堂筋まちづくりネットワークさんは、2001年から始まりました。北のところ、本町を含むところですが、大阪ガスさんを含む企業さんで構成されております。今年はパークレットと、先ほどよりも交通の速度が速いのでガードレール機能など大変だったということですが、冬始めたので座る人もなかなかいなかったという話です。今はもう季節もよくなり、色々なイベントをやっているということで座っている人が増えてきた。これを半年間やっていくということで色々な人が座るようになり、お弁当等を食べているという状況が生まれています。

ミナミまちづくりネットワークさんは、南海電鉄さんをはじめとする企業さんで構成されております。御堂筋チャレンジということで、まず4車線あるうちの一車線側道を車道から歩道にしていくということで、一部完成しております。そこを社会実験として、通行空間を滞在空間にするために色々な実験をしております。これは非常に警察協議が難しいのですが、固定ベンチの設置やデジタルサイネージ、道路上のアルコールも含めた販売など、信頼を獲得しながら、一つひとつ出来ることを増やしていくことにチャレンジをしております、自転車道の整備と車道だったところの歩道化、或は自転車通行帯として、車道を狭めてきたところを使いこなしているという状況でございます。

私の入っております御堂筋長堀21世紀の会は真ん中ですが、歴史としては1982年から始まっています。35年以上続いております。150社の中小企業も含め、大企業の大丸さんも含めて入っているところでやっております。道路の空間というのは関わる人が多いので、そこに関わってきた今のエリアマネジメントという言葉がない時代から、清掃活動等を30年以上やってきました。組織には、若い人たちや専門家、色々な新しい企業の人たちが入って、一つずつ変えながらやっていくというベースを使いながら取り組むということが、凄いコツだと思います。そこにも、参加させていただいたイベント交流活動、まちづくり活動を徹底的にやっています。

今重要なのが、沿道の地権者 28 社集まって頂き、地権者連絡協議会ということで「どういうエリアマネにしていけるのか」ということと、まだ車道が歩道化されていないため、そこで利益を上げていく活動ができないので、それを将来やっていくにはどうしたらいいかという「資金獲得の方法」などの議論を今、重ねております。

元々、長堀の地下鉄を作るという話に協力をしていたのですが、先ほど言っていた「車の道から人の道へ」という長堀 21 世紀の会と御堂筋の提案に合わせて、側道もおしゃれな散歩道にしていきましょうということをまちづくり部会の方で提案しています。真ん中の 4 車線の側道を全部閉鎖して、色々なブースがあり、アートやカフェがある場所にしてはどうかという、独自の提案をさせていただいております。沿道の人、或は外部の人が使えて、ここを起点にしながらエリアマネジメントの収益も目指していくということを考えております。そのために、プログラムと仕組み、デザインについての検討を、社会実験として公開空地と連動したイベントなどを行っております。三団体と行政が発起人となり、企業に入っていないなくても参加できる「サポーターズクラブ」というものを作り、ファンを呼び出して皆で情報発信ができる場を作ったというのが 80 周年です。皆さんのお手元のパンフレットを見ていただき、会員になって頂ければ情報を発信していきます。

将来的には情報ポータルサイトを作ったうえで、市民チャレンジや御堂筋の管理、エリアマネジメントに全員が関われるような機会を作ることを考えています。この場合、シンポジウムで市長も含めてやっていこうという話を共有できたのはよかったと思っております。

御堂筋を、最終的には公園にしていくということで、世界の事例を踏まえながら、真ん中に道を残すパターン、或は真ん中全部公園にするなど、20 年後に実現するための「フローティングビジョン」を考えています。このビジョンを行政施策に落とすと、角が丸くなった陳腐なものになってしまう。20 年後はどうなるかわからないけれど、共有しながらカフェをやっていくこと、或は、経済界も市民も同じプラットフォームで共有していく、そういう活動一つひとつがビジョンに向かっていくことを共有することが大切です。そこまで共有できたのは、「80 周年」という一つのテーマだと思います。

紹介だけになっていますが、色々な活動を発信していきますのでサポーターズメンバーになっていただいて、全国のエリアマネジメントを応援できる仕組みのようなものを共有できたらと思っております。御堂筋のお話をさせていただきました。どうもありがとうございました。

(保井) 「御堂筋をパーク・ストリートに」ということで、アメリカではこういうのを「ビッグアイデア」と言います。大きなアイデアをフローティングビジョンとして、変わっていくかもしれないけれど、大きなビジョンとして掲げ、そのためにやるべきことを一つひとつやっていくという非常に面白いお話をいただきました。

では最後になります、今度は福岡のエリアマネジメントの発展史ということで、リージョンワークスの後藤さんにお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

10 年かけて課題を積み上げ、取り組み方を変えていった「福岡らしい」エリアマネジメント

(後藤太一氏 以下、後藤太一) 福岡からまいりました後藤です。

15 年前に福岡に I ターンして、その後 10 年間くらい事務局ばかりやっていたような人間ですので、ネットで調べると出てくることも入っていますが、その裏の資料を色々引っ張り出してきたので、それを見て、特に広島の方に掴んでいただければと思いお話をいたします。

「天神ビッグバン」というもの（スライド）を見るとわかると思いますが、あちこちで「天神盛り上がっているね」と言っていたいており、これに至るまで何があったのかをお話したいと思います。

「エリマネってなんなの？」ということが広島での課題だと私は思っています。天神で起きたことが何かというと、（スライドの）左から右にものが流れていったということが課題だと私は受け止めています。

エリアマネジメントの発展段階として、最初は商業者中心に始まったエリマネなので集客のための「情報発信」をしたいということ、そして、先程紙屋町のお話にもありましたが、販促をしたいということで「集客イベント」を行いました。その後、「不動産開発」もしていきたい、パブリックスペースでやろう、公園でやろう、PPPでやろう、という話が挙がりました。その先で、再開発をしてもビルの中身が埋まらないので「ビジネス開発」をしなくてはならないと、産業振興という伊藤先生が仰いました。さらに、都市全体で「ストック」をしっかりと作っていく、という流れです。こうした課題を10年かけて積み上げ、取り組み方を変えていったと私は受け止めています。

「これ何だったの？」ということをおなりに考えると、ファシリテーターの田坂さんと一緒に悩んだようなことが書いてあります。結局、皆で協働で学習しながら頑張っていると、やれることからやるということは当たり前なのですが、やれることだけをやっていると行き詰まるので、「ある程度全体を考えてからやる、それがあから型になり、型が破れるので形無しじゃない」と、駄洒落が言いたいのですが、そういうことをやっています。

（スライドで）4つ項目を書いています、最初は「事例」の勉強を結構していました。それを「理論化」して一生懸命消化しようとして産官学皆で話をし、田坂さんが得意な「対話」を色々して、どうやっていこうか、誰とやっていこうかということをやった先に「実践」がある、そのなかに小さいPDCAがあると考えられると思っております。

団体ベースでは、10年間で3つの団体の立ち上げを手伝いまして、全部が現役で動いています。

（スライドの）一番左が「we love 天神協議会」、狭い意味でのエリアマネジメント団体です。2年遅れてできたのが（スライド）真ん中の「天神明治通りまちづくり協議会」という、地権者による連鎖型再開発協議会です。3年遅れてできたのが「福岡地域戦略推進協議会」という産業振興団体です。やはり課題が変わってきてお互いにプレイヤーも被っていますが意識しながら連鎖して動いていったということが非常に面白かったと思っております。

We Love 天神協議会ができるまでには、社会実験とフォーラムの2つの流れというものが世の中に出ている資料では書いてあるので見て頂ければいいですが、お宝映像を発見したのでこれをお見せします。2003年11月14日に保井先生をお招きして、福岡市内のエリアマネジメント、BIDの勉強会を行いました。実は、これは市役所の人やろうと言った当時係員か係長だった今の部長が、民間も勉強しなくてはダメだと言って、百貨店や鉄道、FMなどに入って頂き、6人ぐらいキーパーソンと思われる人を集めて保井先生との対話を行いました。この方々が、「じゃあエリマネやろうか」という原動力になっているのでお宝映像です。こうしたことが15年前の2003年にあり、調べていて懐かしく思い見ていました。

これと前後して、社会実験をやり、同じ釜の飯を食って皆でやろうとすごく盛り上がり、どう形にするかということで、僕が企画その他をやらせてもらったものがフォーラムです。フォーラムは、形だけ見ていただくと三部作になっています。最初は理論、次は天神の棚卸として「何をやってきたか」ということで、天神の警備やってきた人、清掃をやってきた人、商業をやってきた人などに登壇して頂き、自分たちがやってきたことを確認して、最後の日に「やるぜ」という宣言をしてもらう三部作

を二か月くらいでやりました。この宣言が、やらせと言うといやらしいのですが、我々が宣言をして満場一致の拍手をもらうという「やらせの株主総会」のようなフォーラムをやって立ち上げを決め、翌週か翌々週に生まれました。それが We Love 天神協議会です。

お金を誰が負担するかという話は結構シビアに詰めました。当時はリーサスも JIS も全然使えていなかったの、エクセルを使い市の職員たちが気合で一生懸命やっていました。(スライドの) 右上の 2,250 万円を誰がどう負担するかというシビアな詰めを、立ち上げ段階でやっています。そのときに、どういうビルがあるか、床面積何㎡だから享受する利益はこのくらいだから面積按分で金額を割ったら幾らになる、というシミュレーションをやりました。そうして We Love 天神の会費制度を決定し、アメリカの BID を真似た受益と負担の公平性を担保する会費設計というものを 11 年前からやっています。今もこれをやりながら we love はやっています。

実際は色々やっていて、西鉄の社長が当時部長ですけども、ごみ掃除したり、当時の専務がごみ拾いをしたりと、トップも現場に出て一緒にやるということを実践し、実態がついていくようになったのが 10 年前の話です。

地権者協議会がなぜできたかという、エリマネでまちづくりガイドラインを作った中で、「都市は新陳代謝しないといけない」ということを言っているの、ではどうするかという話をしました。この時も、先程の忽那さんの話ではないですが、何か絵がないと皆まとまらないということで、九州電力、福岡銀行、西日本鉄道の三社のお金で私が絵をかきました。この資料は世の中に出いてませんが、その時にエリマネと三段構造をすでに設計していて、We Love と地権者協議会、事業者協議会の三段ロケットで福岡市との連携を考え、この実施を、西鉄を中心に呼びかけ地権者協議会の準備が始まります。視野は大きくということで、ウィーン、ミュンヘン、シアトル、ポートランドと一緒にというようなことを言って、「福岡の中心を福岡だけで考えない、福岡には博多もある、天神だけ良くても仕方がない」という事で、「全体で考える」、「我々は支店経済を脱却したいんだ」、「札幌広島ではなく、福岡は世界の福岡になりたいんだ」ということで、そのためには骨格となる周りの肥沃な大地も同時に残しながら都心を目指すという、結構頑張った理念を作っています。

その上で、またシンポジウムで「皆でやるぜ」と宣言する。この時に、福岡市の局長にも出ていただき、「我々も応援しなきゃいかんよ」と皆の前で言っていただくということをやりました。できた後、仏ができて魂を入れていくのですが、今、市の理事か部長が当時係員くらいの時、一生懸命スキームを作っていたのがこの当時です。困ったら外国人に来てもらい、「君たちは最高だ、世界の福岡だ」と言ってもらうことをやっています。

時間切れなので特区の話は飛ばして、最後に、参加者 61 人、外国人と福岡の人は半々の三日間の会議で、田坂さんに一生懸命ファシリテーションして頂いた結果、特区の受け皿になる FDC という協議会ができています。この時、市長にも出ていただきましたが、これをやったときに、やはり理論を学習しているのです。エリマネ地区だけでは産業などできない、都市圏でしっかりやるんだということも決めていたので、その先で FDC というものが生まれ、またそのシンポジウムで「やるぜ宣言」をするという、いつものずるいやり方をしています。

最後に一枚だけ映して終わります。言いたかったのは、対話はたくさんしていますし、外国人も投入しているのですが、福岡らしさというものが凄くあると思っています。広島は、戦災復興からの行政主導のまちであり、メーカーのまちであり、福岡と全然 DNA が違っていると私は見ていて思いました。福岡はお祭りをやると盛り上がるまちなので、こういうやり方で「イベントやってやるぞ」と言うと前に進みますが、広島は広島のやり方が何かあるだろうということを考えていただいたらいい

とっておりました。以上です。

(保井) みなさんどうもありがとうございました。今回は、東京のエリアマネジメント団体の方には入っていただけていません。エリアマネジメントというご存知の方は、やはり特定の大企業さんが一生懸命引っ張ってやっているというイメージをお持ちの方が結構いると思います。それを考えると、広島以外の三地区の話をお聞きいただいてもわかるように、非常に多様な団体さんが入っています。

伊藤先生のところは、本当に町内会から商店街、振興組合までたくさん入っていて、商店街と自治会ってよく対立軸になるのでその辺りどうしているのかというところも聞きたいのです。

多様な人たちのいる街に、誰かが、この3人の先生方に頼んで、ずっと fixer のように入っているわけですね。今日の広島のお話からすると、「何が原動力になるのか」、「その時にどういう人たちを巻き込んでいったらいいのか」、或は、「頼んでいったらいいのか」という、「始まりのところ」について、広島の3地区の方々が、明日から何をすればいいのかを、少し議論して終わりたいと思います。

エリアマネジメントの推進のために、動くときに必要な要素とは何なのか

(保井) まず、後藤さん、「We Love 天神」のお宝映像で20代の私が見られましたけれども、後藤さんがそれに取り組んでおられるのは私も存じていますが、そもそも、後藤さんがそこに入ったきっかけは、「もう助けてくれ」と誰かが言ったのですか。最初の原動力、「We Love 天神」が出来始めた最初に何が起きたのか思い出せますか？

(後藤) 私が福岡に移住したのは、福岡市役所から「都心再生の戦略を考えたいから手伝ってくれ」「一コンサルとして東京から来るのは面倒だから住め」と言われたので住んだのが最初です。

当時、最大手地主の西鉄（西日本鉄道株式会社）が「再開発したいけど、ちゃんとまちづくりから考えないかんよね」と考えている会社だったので、すごく応援をしてくれて、最後は町内連合会長が「後藤、お前やれ」と、皆の前で言いました。結果、色々ありまして、やはり地元の方がより良いという話があり、行政の担当者と西鉄グループの若い社員が中心となり、先程お話ししたシミュレーションや検討を、彼らが行ったということが、1年程でありました。

(保井) それを広島に置き換えると、どういう形だと思いますか？

(後藤) 今すぐ言えるわけがないじゃないですか。

(保井) それはわかりますけど、今のお話を聞くと、行政と、西鉄さん等のある意味非常に地域経済にとって大事な事業者幾つかが、「やるぞ」という気持ちをしっかりと形にし、動かしていく事務局、そして事務局を動かす人間を確保してきたという事だと思います。

先程、後藤さんは「事務局をやってきた人間です」と仰っていましたが、「動くときに必要な要素とは何なのか」、と疑問に思うのですが、どうですか？

(後藤) 一つだけ言って終わるとするならば、我々が一緒に活動した時に居た藻谷浩介さんが「我々は山椒部隊である」、「ふりかけである」という事。本物の中身ではないから、どうやって中身の人

がやれるようにするかに、というところに持っていくことが仕事だと思っていました。

先程、渡部さんが人事異動の話をされていましたが、それはあると思っていたので、異動しても大丈夫なようにできるだけ頑張ろうと考えました。皆で勉強して、ある程度の共通理解を作っておけば、キーパーソンが抜けるのは痛いけれども、何とかある程度はいけるというような話は、最初に話し合い作っていたような記憶があります。

時代の変化に対応した地域ニーズの捉え方とは

(保井) はい、ありがとうございます。

では、忽那さん、「長堀 21 世紀の会」は、私も先程のお宝映像の時期に理事長とお仕事させて頂いたことがあります。長く活動されているというのは認識していますが、時代の変化に対応しながらパーク・ストリートというものを担い手としてずっと活動されているという、その変化にどう対応してきたのでしょうか。

その中で、忽那さんはいつから理事になり、何故入ったのか、そして御堂筋の団体の方は、何をしたいと思われたから頼まれたのか、その辺りの変化の属人的なところをもう少し教えていただきたいです。

(忽那) 僕は、最初は「水都大阪」という水辺の活動を支えるということでした。最初に広島でもやったらいいと思うものは、水辺とかそこにしかないもの、川はグリットに街が出来ていても色っぽく流れている、そこを使いこなしてみようという人たちを集めること。

ゲリラ的に2つやっていて、1つは、「ゲリラ的に自分が楽しみに行く」こと。大阪市さんが、「浮浪者が溜まるから」といってフェンスをつくって誰も入らない公園にしていたので、フェンスを取り、「日曜日に全員集まれ」みたいに、そこでピクニックを毎週やっています。その他、道路上でピクニックをして、警察が何分後に来るかを計ったり、公園の芝生で入ってはいけない所で公園管理者が何分で来るのか計測しながら逃げるなど、とにかく楽しみながら活動する人たちを集めてやっていると。僕らがいつもやっているところで、商店街など色々なところで「俺らも入れろよ」と集まる。それを最初にやる時に、「にやりたいこと」と「困っていること」を皆に聞いていて、〇〇の時も2,000団体くらいに聞いて、「困っていることを助けたい」と考えている人が身近にいるという事を出会わせて、「使いこなしのイベントを共有しませんか？」という集め方をしていくというのが一つ方法かと思います。

それと、やはり僕は、大企業とか大きいところとか、行政の連続性が異動があってないとか、それは民間の団体に「連続性を担保する機能を持っているのだから特別なんです」という、付与する権限を与えなくては駄目だと思っています。ただ、どこのならずもんかわからんとくに権限は渡しにくいので、大企業さん、特に引越しできないような企業、電鉄さん、エネルギー系企業がキーになると思っています。

その信頼感を担保しながら、ここはやはり大学の先生や、あとは僕らもデザインやっていますから、大きな企業とデザインでデベロップメントをやったりしますので、そういうキーマンはいるはずなので、大きな組織と小さなものを楽しく繋いでいく人たち、そういう中間支援のようなものを作っていく。

広島市さんも、どこでもそうだと思いますが、結果の平等ばかりの話をして、「この公園で何かやりたい」と言ったら、「あそこもそこもあそこも俺にやらせろ」と言う人が出てくるので全員やめた

ほうがいいという平等で行こうとするので、「ここが平等です」、と示すべきで、頑張っているところは、頑張っている基準を持ち、やるなら特別扱いをする。3年間を徹底的に設けて、何してもいいという社会実験を徹底的にやらせるような権限を与えるべき。そういうことをプラットフォームとしてやっていき、民間側も責任を持って行動ができるような、そういう協議会があったほうがいいと思います。

僕は関わったのは6年くらい前からで、御堂筋は何かビジョンを描きたいという話で、「市の人も府の人も色々知っているようだし、大きな企業とも付き合っているので、ゲリラと言って遊んでいるから、そういう奴に描いてもらった方がいいのではないか」という話からスタートして、関わっています。御堂筋は、ホップ・ステップ・ジャンプでいくと、「ホップ」なので、まだまだ道路も出来ていないし、そこで稼ぐ仕組みを考えながら進めていくということを、この御堂筋の3団体で議論をして、市と共有しながらやっていく。そういうことが出来たらと思っています。

(保井) はい、ありがとうございます。

楽しくやるのはすごく大事ですよ。さっき後藤さんが古い映像を出してきて思い出しましたが、20代の時から一緒に色々やっています。それこそ、あの頃は、「50、60代に任せておちやいかん、20代や30代で変えなきやいかん」という話をしてきました。きっとその頃、忽那さんはゲリラをやって楽しんでいただろうと思うと、見ている人がこうやって皆さん自由に頼まれて、それぞれの街で仕組みを作る。今となつては、こんな高いところから話す人たちに皆なつてらっしゃいますけれども、やはり若い人が楽しんでいる街で、何かやりたいというような人ばかりです。広島は本当に沢山いると思いますが、そういう人に舞台を与えて育て、10年後、20年後にはこういう形で広島のまちを伴走して、その仕組みも変えるというような人が育っていくは非常に大事な視点だと、今、忽那さんがそういうゲリラをしながら楽しんでいる姿を想像しながら思っていたところです。

多数のステークホルダーとの連携によるイベントの動かし方とは

(保井) 伊藤先生。名古屋はもう、ステークホルダーを沢山詰め込んで作っていらっしゃると思いますが、そうすると実践大丈夫なのかなと心配になりますけれども、どういう方がイベントを動かしていらっしゃるのか、そこに伊藤先生がどう関わっておられるのか、是非教えてください。

(伊藤) 今、お二方の話の延長で、3つくらい思ったことを簡単にお話します。

まず、大学の研究室と上手くコラボレーションして学生を使うというのは、いい原動力になると思います。例えば、町内会の小難しいおじさんたちがたくさんいても、学生から提案をしていくと、「まあ、君たちわかっていないよね」と、少し説教的ではありますが、ちゃんと教えてくれます。学生から最後に、「社会実験をやりたい」といった時に、「どうするんだ」という時にも、市役所の皆さんにお願いする時にも、「僕たちこれ卒論テーマになっていますから、卒論書けないと卒業できないんです」と言って、最後は泣きながらやるとか。半分冗談ですけども、やはり若い原動力というものが、失敗も恐れずやっていくということです。そういう連携の仕方は一つあると思います。

また、そのイベントから、そのまちづくりをやっている人たちは、栄南の場合、中小企業の経営者か、お店を営んでいる人たち、地権者の宏人が中心で、大企業の人はいません。そうすると、ある意味3年で変わるということはなく、大きな規模で何かすることは出来ないかもしれないけれども、逆に言うと、変わらず継承出来る。ある社長さんが、ある年齢になってくると次の息子連中が頑

張って30代が出てきます。新陳代謝が非常に上手く出来ている事です。

栄南の場合は、まちづくりをやる皆さんの三つの覚悟が明確なのです。まず、「汗流す」事ことで、社会実験をすればどんな偉い人たちでも、どんなお金持ちでも現場に来て警備をするなど一緒に汗を流します。また、「知恵も出す」。海外と一緒に視察したり、全国を視察したり、色々なことを勉強します。そして、最後は、お金を出しても出せなくても「リスクを最後俺たちが取るんだ」というケツ持ちをする覚悟があれば、物事は確実に動くので、「汗流して金出して知恵出す」というこの3つが出来るのが栄南の強みだと思います。

この10年は、博多や大阪、札幌などの色々な活動を全国的に見させていただきながら、全国で初めてのこととして何が出来るのかということ、ある意味小さな裏テーマにしてやってきました。そうすることによって、もちろんメディアの関心も皆さんの興味も湧きますし、やっている自分たちの誇りにもなってきます。全国でリーディングしていることをやっていく。今年、都市再生推進法人を取ったので、もう少しランクを上げよう、ギア上げようと考えています。今まで、ポートランドやシアトルなど、ヨーロッパ各国見てきましたが、「何で俺ら見に行っているんだろう」、「あいつら見に来ないじゃないか」と感じています。だから、見に来てもらえるような社会実験的なものや、新しい試みをしようとする、更に上がっていくことが出来るのです。シティプロモーションや観光的な話であったり、産業政策にも繋がってくると思いますので、その3つが上手く行けるといいかなと感じながらやっています。

(保井) はい、ありがとうございます。

広島の方3人の方にマイクをお渡しして追加のコメント、或は、せつかくの機会ですので、先ほどの論点も出していただいて、ここだけは聞きたいというようなことがあればぜひ出してください。

宇山さん、いかがですか。

(宇山) 色々活動してきて、三者がそうかどうかはわかりませんが、行政と役所と一蓮托生になるのは大変だと思っています。我々の活動は、行政のインフラを使う事も多いので、大きな方向性は共有できていますが、やはり目先のことで、なかなか一蓮托生になるようなところを突破するのが難しいなと思っています。

ゲリラ的にやりたいのですが、一蓮托生になりたい。そこはゲリラ的に出来ていないので、結果的になればいいのですが、何がきっかけでそういう関係までいけるのか。どこの街もそうかもしれませんが、一民間企業と、行政が、ある団体と密接になるのはどうなのかという空気は広島にもあり、そこを超えていくことが出来ないのではないかと感じています。「この企業、この団体なら任せられる」となるために、その取掛りで非常に苦労している感じがあります。

皆さんは、そこを突破する手掛かりをどう見つけているのか興味があります。

(保井) ありがとうございます。大宮さんは、何か追加でコメントがあればお願いします。

(大宮) まだ出来ていない団体なので、これからだと思っているのですけれども、私どもの団体の中でも何かを企画するにしても、自ら発して企画をするというよりも、何となくそれに合わせていると感じるところがあります。

皆色々な思いがあるとは思いますが、なかなかその話し合いの場から意見が出ずに、別の場でちら

ちらと言うということなのですから。その辺りのリーダーシップを発揮できる人、キーマンとなる方が、その団体の中に1人、2人いると事が進むのかなと思います。まだその辺りのレベルまで私もは到達していないので、非常に今回は参考になりました。

(保井) はい、ありがとうございます。渡部さん、いかがでしょう？

(渡部) お話を伺い、私たちもやれることはやってきているつもりですが、逆に言うと、やれることだけやっていたのかなという気はしています。もう少し先のことも見据えて、「どういう街にしたいか、どういう団体でありたいか」ということは議論していかなければいけないと、今聞いていて思いました。引越してできない企業さんに頑張ってもらおうかなということも少しと思いながら。

(保井) はい、ありがとうございます。

では、宇山さんから出ていた「行政と一蓮托生になるための秘訣」というお話と、大宮さんからの「リーダーやアイデアが出る雰囲気づくり」というお話について、忽那さんいかがでしょうか。

(忽那) これは、どこの街でも出来ることではないと思いますが、その状況に合わせて2つほどあります。

1つは、やはり僕らしか出来ることはないのですが、大阪の場合は、功罪色々あると思いますけれど、橋下市長です。全部壊して民間から、僕らがやってきたことの提案が出来る場所があったということです。「水都大阪」でいうと推進委員会と経済界のトップが全部出て来て、マスコミ20社が揃い、そこで、半年に1回、僕らの提案をトップに説明できる機会があり、それを行政に落としてやっていく。なかなか上手くは行きませんが、そういう場があるかどうかという事はとても正しいと思います。

変な言い方ですが、リーダーシップを持ってやっていく市長を選ぶということが大事で、橋下さんかいいかどうかを言っているわけではなく、選挙への意識を高めて、エリアマネジメントがしっかり儲かり税収も上がる、資産価値を保てるのだから、戦略をしっかりと打ち、市民や企業に任せていくんだという話をする人に、任せていくという事です。最初は、投票行動に結び付かないと、議会でも「やるなやるな」ばかり言っていたのに、選挙前になるとやらないことばかり言う、その文句ばかり言っている。そういうところに「やらない責任、議会は取れんのか」というような話ができるプラットフォームを作っていく。ちょっと、ブラック的に言っていますが、大切なことの一つだと思います。

もう1つはトライセクターでよくいわれている、「三者の関係」です。行政と民間、或は行政と市民というところを、一対一で話しをさせないことがコツだと思っています。僕は、トライセクターという3つの、或は、大学でも僕らみたいなどころでもいいのですが、第三者を入れて話をしていく。

全然違う飛び道具を持っている人、喧嘩するときに、「こっちのほうが無茶苦茶なことを言う」、「あいつのほうが無茶苦茶なことを言う」、色々いますが、僕がワークショップをやり時は、文句を言う奴がいたら「帰れ帰れ」と言うという話をしている権利をくださいと行政の人に言っています上手くいったら「あいつにやらせた」と言ってほしい、下手こいたら「あいつが勝手に言った」といつてクビにして次の人を入れていく。そのトライセクターの三者でやっていけば行政も win-win のことが起こる。それは、小さな商店街でもできるはずだし、大きなところでも出来ると思っています。

(保井) はい、では伊藤さんお願いします。

(伊藤) 市役所の皆さんと、とにかく委員会や実験や協議会と一緒にしてもらい、成功だとか何か実現した時に一緒に喜んで体感していくことが大事かと思います。そうすると、仲間意識が生まれて一緒に頑張っていくという気になるというのが一点。

もう一つ、実は、あまり表に出ないところで、各行政の中の部局で情報交換が上手く行っていないとか、それぞれのことでそれぞれの取り組みをやってしまうので、勉強会をやっています。部長級以下何人の担当者に出てもらって、各局一緒になって話題提供しながらそれぞれの情報交換をして、今年はこちらでやっている調査の現象をこちらで使いながら、一緒に共有しながらやっついこうとか、そういう道案内というような動きが必要ではないかと思います。

(保井) はい、ありがとうございます。では後藤さん、一蓮托生の話、または最後のコメントをどうぞ。

(後藤) 話を大きくして、大義をちゃんと議論をするということを福岡ではやってきたつもりです。そのやり方が、外国の方、特に外国の行政のプロや市長を連れてきて、話して頂く。行政が「こんなんだけど、日本の行政はどうなの？」という話をしてもらおうと、「へえ〜」という事が結構起きていて、或は、芸術家や宗教家、もう損得の話ではない次元の話をする人を投入するということをやると、「そりゃそうだよね」と皆なる。そこに田坂さんみたいな人にファシリテーターで入っていただき、「皆さん、これどうやって受け止めますか」という問いを投げてもらおうと、チームが結構結束するという事はあったと思います。

それと、表にあまり出てこないのですが、選挙の時に活躍する人がどの街にもいると思います。言い難い話をしているかと思いますが、そういう人が火を噴いた時に、しっかりと裏で照明を消してくださり、「企業と行政と政治家は三竦みだから」といったことを言う人がどのまちにもいるはずです。実は僕、結構応援して頂いていたので助けられました。

最後は真摯に。「行政」という括りが僕は良くないと思います。大きな組織は、絶対ちゃんとした人がたくさんいるはずなので、個人個人の佐藤さん、鈴木さん、後藤さん、わからないけれど、その人ともう腹を決めて一緒にやる。この人がキーパーソンだと決めたら、徹底して付き合うという事しか多分やりようはないと思っています。

(保井) はい。時間になるにしたがって、話が大きくなって、どうまとめたらいいのかわからなくなりましたが、ただ言えるのは、エリアマネジメントは、小さなまちづくりの話でもありながら、都市を変えていく都市経営そのものの話でもあるということだと思います。

今日も、忽那さんから、「仕組みづくりとプログラム」、「使いこなすプラスデザイン」の話もありましたけれども、仕組みは、市長とそれこそ「転勤のない企業の人たち」もそうですけれども、事業者と市民や、その「選挙の時に活躍する人」もそうかもしれませんが、まさにトップできちんと作っていくものであり、ビジョンを共有することだと思います。そういうことをするのも、一つのエリアマネのトップの役割かもしれません。

もう一つは、まさに事務局が中心となり、市民と一緒に、それこそ「ゲリラが大好きな若者」など、

そういう人たちと一緒に、本当に街の色々なところを使いこなしていくようなことをやる。

そういう意味で言うと、トップダウンとボトムアップの両方の動きが絡み合うような流れを作っていくことが大事だと思いますし、そういうことをやるためには、常に行政だけではなく、企業だけではなく、大学だけではなく、「トライセクター」という話もありましたけれども、セクターを超えて話し合う、それから実験、事業をする、活動をする。そういう癖をつけていくというのは、都市としてすごく大事なことだと思います。

伊藤先生からもお話がありました。大学生というの、大きなプレイヤーになっていくと思います。今日沢山の人が来てくださっていると思います。それぞれの方に、それぞれの役割があると思いますし、是非繋がって、街を使いこなす、街の仕組みを変えていくという流れが起きていけばいいなと思いますし、セッション2では、まさに「対話から始まる、対話力から始まるパブリック・ライフ」というところに繋がっていくと思いますので、またセッション2にそうした話を繋げていければと思います。

では、セッション1、非常に時間がない中、皆さんご協力ありがとうございました。これにて終わらせて頂きたいと思います。パネリストの皆様、本当にどうもありがとうございました。拍手をお願い致します。